

勢を以て喜見に入勢を攻めたるも城兵少なるため  
に防ぎ難き事にも詮方なくおもひて先年原を助をも  
て中傳くより取たる城中の若者系勝にふりし追  
討にたるとよりけし所は伊豆守何とて青の若氣を  
働きのふとに城堅固より保り數日を送りたて義光  
より猶又復讐も有るなり生時内外より糧合お出  
た難なり勝利を得ては今平素にお出付入し  
せし水も思ひありん元来付入の上杉家の海物ありと  
少なき難矣義光公越前守に依せ令れ城中の  
勢兵一人も柵より外へ出さふんと委細仰られしを返

しく平素にあらうと申ありと然れども若者原少く水  
に何れも意あられとて上山長谷堂へあまなる款を  
そ儀に差支る事なるとありあればれ出向い款を  
追拂ひ分捕る名を令て口々に中々やは可なる事  
は方より是難に數多き出し作物を并取をを越  
前守是を見て伊豆守を招てくゑる何れ見えある  
の若者原田をとりありきといふ若者軍をを望めは我  
もあひ出一軍走さき引入ふん時危なる根にはか  
ひあると既にお出人とあるより伊豆守いた越前守  
經今敵まゐる追来るとも返し合を成るは是早